

令和 7 年度秋田県立大館少年自然の家第 2 回協働会議（11 月 19 日開催）

1 日 時 令和 7 年 11 月 19 日（水）午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分

2 場 所 秋田県立大館少年自然の家 視聴覚室

3 出席者

【委 員】

長岐公二（会長）、渡辺俊春、福原良英、石川久晴、田中清美、安部芳範、  
鳥潟美奈子、大野美佐子

【大館少年自然の家】

田村所長、北林副主幹（兼）チームリーダー、石黒主査  
成田主任社会教育主事（兼）チームリーダー、  
渡部社会教育主事（兼）シニアエキスパート、高杉社会教育主事

【教育庁生涯学習課】

渡辺主任社会教育主事（兼）サブリーダー

4 議事概要

- （1） 開会
- （2） 大館少年自然の家所長あいさつ
- （3） 教育庁生涯学習課長あいさつ（代読）
- （4） 会長あいさつ
- （5） 報告・協議

①報告

- ・ 令和 7 年度利用者状況について
- ・ 令和 7 年度主催事業及びその実績について
- ・ 令和 8 年度の経営構想について

②協議

- ・ 今年度の取組、運営等について
- ・ 次年度の取組、運営等について

- （6） 閉会

5 委員からの主な意見

- ・ 施設名「少年」からくる誤解を解消するため、大人や一般団体も利用可能であることを広報誌でアピールし、利用率向上を図るべきである。
- ・ 企業が社員教育のために施設を 4 月上旬に利用ができないか検討すべきである。
- ・ 不登校児童生徒向け主催事業の参加者増加に向けた周知方法の工夫や、防災体験型キャンプの具体化推進を求める。
- ・ 施設の存在意義と、職員が一体となって子どもたちを迎え入れる姿勢がリピーター増加に繋がっていると考える。
- ・ 出前講座の対象場所の拡大（特に高齢者福祉施設）を提案し、音楽活動においては形態の見直しと子どもたちとの交流の必要性を提言する。
- ・ 施設の持続的運営のため、利用者層の明確化や地域住民の参画促進、口コミ拡大など、多角的な視点からの助言を踏まえ、利用促進のための具体的な施策と営業努力が求められている。